

対策計画書

2022年 9月 〇〇日

大阪府知事様

届出者住所 大阪府〇〇市〇〇町1-1

住所や氏名等が変更になった場合は氏名等

〇〇ビル

氏名 株式会社〇〇

代表取締役 大阪 太郎

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

①府内に設置している事業所において使用した燃料並びに熱及び電気の量を原油換算した合計量が1,500キロリットル／年以上の特定事業者

大阪府気候変動対策の推進に関する条例第9条第1項の規定により、次のとおり届け出ます。

特定事業者の主たる業種	9食料品製造業	
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者
		大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者
	レ	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者
事業所	②連鎖化事業者のうち、当該連鎖化事業者が府内に設置している事業所及び当該加盟者が府内に設置している当該連鎖化事業に係る事業所において使用した燃料並びに熱及び電気の量を原油換算した合計量が1,500キロリットル／年以上の特定事業者	
	③府内に使用の本拠の位置を有する自動車(軽自動車、特殊自動車及び二輪自動車を除く。)を100台以上使用する特定事業者	
	〇〇株式会社は、大阪府内において加工を行っており、大阪府内では1工場と2店舗、1配送センター、及び1支社を所有している。	
事業所の名称及び所在地	別紙のとおり	
温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策	別紙のとおり	
温室効果ガスの排出の抑制に関する目標	別紙のとおり	
計画期間	2022年 4月 1日 ~ 2025年 3月 31日	

連絡先	部署名	環境推進室環境対策課
	電話番号	06-〇〇〇〇-〇〇〇〇
	電子メールアドレス	〇〇@〇〇.co.jp
※整理番号	※受理年月日	年 月 日

備考1 □のある欄には、該当する□内にレ印を記入してください。

2 ※印のある欄は、記入しないでください。

1 事業所の名称及び所在地

No.	名称	所在地			備考
1	大阪工場	A市	a町1-1	〇〇ビル 1階	延床面積 45,000㎡
2					
3	No.1~10までに、エネルギー使用量が1,500kL/年以上の事業				
4					
5					
6					
7		市区郡町村名を入力してください。 (※「大阪府」は省略) 例:大阪市中心区 泉北郡忠岡町		(市町村名の続きとなる)町字街区名及び丁番地を入力してください (※丁番地については半角でハイフン(-)でつないで下さい。) 例:大手前2-1-2 新浜0-0-0	
8					
9					
10					

以上、主な事業所 (燃料並びに熱及び電気を合算したエネルギー使用量が、原油換算燃料等使用量で1,500キロリットル/年以上の事業所)

11	大阪支社	C市	c町3-3	〇〇ビル 3階	延床面積 1,000㎡
12	大阪南店	D市	d町4-5		延床面積 1,500㎡
13	大阪東店	E市	e町1-3		延床面積 1,300㎡
14	大阪配送センター	F市	f町2-4		延床面積 15,000㎡
15					
16	No.11以降に、エネルギー使用量が1,500kL/年未満の事業所を入力してください。				
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					

2 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間

2022年	4月	1日	～	2025年	3月	31日	(3年間)
-------	----	----	---	-------	----	-----	-------

(2) 基準年度におけるエネルギー総使用量及び温室効果ガス総排出量

区分	基準年度 (2021) 年度
エネルギー総使用量	187,998 G J
原油換算量	4,698 k L
事業活動に伴う温室効果ガス排出量	8,125 t-CO ₂
経済的手法を活用した温室効果ガスの排出抑制対策による排出削減量	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量	8,125 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	8,638 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標

区分	目標年度 (2024) 年度	
目標年度の事業活動に伴う温室効果ガス排出量	9,950 t-CO ₂	
経済的手法を活用した温室効果ガスの排出抑制対策による排出削減量	グリーン電力(熱)証書	t-CO ₂
	オフセット・クレジット	t-CO ₂
	国内クレジット	t-CO ₂
	合計	0 t-CO ₂
目標年度の温室効果ガス総排出量	9,950 t-CO ₂	
目標年度の温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	10,650 t-CO ₂	
選択	目標削減率 (排出量ベース)	%
レ	目標削減率 (原単位ベース)	-11.9 %
目標削減率 (平準化補正ベース)		-12.6 %

いずれか選択してください。

目標削減率に関する考え方

LED照明の更新、不要な照明の消灯は実施済みであり、本計画期間中には、ボイラー設備の更新、屋根への高日射反射塗料の塗布による空調負荷の低減等に取り組むことで温室効果ガスの排出量削減を計画しています。

当社は2015年度に環境行動計画を策定し、省エネルギー対策を積極的に推進し、2012年度比で2020年度の二酸化炭素排出量を7%削減する目標を掲げています。本計画書では、自社の環境行動計画に掲げた取組みを反映したものとしています。

その他の抑制対策

内容 ()	万t-CO ₂
府域の自社所有地以外での植林、緑化、森の保全による二酸化炭素吸収量	
目標年度における吸収量	t-CO ₂
吸収量による削減率	%

備考 吸収量による削減率は、目標削減率において選択した排出量ベースまたは原単位ベースにより算出すること

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()
基準年度 105 (単位: t) 目標年度 115 (単位: t)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

大阪工場では生産量を、大阪工場以外の事業所では延べ床面積をそれぞれ原単位の分母として設定し、それらの重み付け合算により求めた換算生産量を全体の原単位として設定しました。

3 事業活動に係る温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ・全社的に温暖化対策に取り組むため、環境マネジメントシステムを導入しています。
- ・社長を本部長とする地球温暖化対策推進本部を設置し、毎月対策の進捗状況を報告し、現状改善などを検討するとともに、店舗ごとに2ヶ月に一度温暖化防止に関する研修会を実施する等して、本体制を継続してまいります。

排出抑制対策の推進組織、環境マネジメントシステムの導入、研修・教育等の実施体制等について記入してください。
省エネ・省CO2活動推進のための体制を確立できていない場合、「4対策・評価」シートNo.4「推進体制の整備」は「実施済み」を選択できません。

4 重点対策実施率の算定と事業者評価

(1) 事業者情報

名称	業種
○○○	9食料品製造業

(2) 目標削減率と対策実施率

目標削減率	-11.9	実施率	3.9 %	評価	A
平準化目標削減率	-12.6				

(3) 重点対策の実施状況 対象事業所 (**大阪工場**)

番号	区分	種類	項目	重点対策名	対策の 実施年度	(実施予定の場合) 実施年度	重点対策の判断基準は「重点対策ハンドブック」を参照してください。 ●「予定なし」「非該当」の場合は理由を必ず記入してください。「実施済み」「実施予定」の場合は対策内容を記入してください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 全ての項目の実施状況を必ず記入してください。 </div>							
1	GHG排出人工排熱平準化	必須	運用による対策	大阪府気候変動対策の推進に関する条例の届出における対応	実施済み	—	
2	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	機器管理台帳の整備	実施済み	—	
3	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	エネルギー使用量の把握、管理	実施済み	—	
4	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	推進体制の整備	実施済み	—	
5	平準化	必須	運用による対策	ピークカット、ピークシフト対策の実施	実施予定	計画期間内	発電機を利用したピーク電力の削減を行う予定。
6	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	オーナー・テナント対策の実施	非該当	—	テナントを所持していない。
7	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	ボイラーの空気比の適正管理	実施済み	—	空気比が1.25～1.3と、適切な数値で運用している。
8	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	ボイラーの効率管理	実施済み	—	点検記録をもとに、ボイラー群の効率の計算を年4回行い、効率化に努めている。
9	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	ボイラーの圧力・温度の管理	実施予定	計画期間内	月に1回のペースで、圧力・温度等を確認する予定。
10	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	蒸気配管のバルブ等の保温	実施済み	—	蒸気配管において、断熱を行っている。
11	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	熱源設備における空気比の適正管理	実施済み	—	空気比が1.25～1.3と、適切な数値で運用している。
12	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	熱源設備の効率管理	実施済み	—	熱源設備の効率を年2～3回程度確認している。
13	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	熱源設備の冷水出口温度管理	実施済み	—	冷房期間には、低負荷時の冷水温度の値が真夏の値より高く設定、暖房期間には、低負荷時の温水温度が真冬の値より低く設定して。
14	GHG排出人工排熱平準化	必須	運用による対策	空調機の室内温度の適正管理	実施済み	—	室内温度が、夏季：26℃、冬季20℃になるよう、空調機を稼働。
15	GHG排出人工排熱平準化	必須	運用による対策	空調機の外気導入量の適正管理	非該当	—	「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に該当しない施設のため。
16	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	空調機のフィルターの定期的な清掃	実施済み	—	管理標準により、月1回清掃を実施している。
17	GHG排出人工排熱平準化	必須	運用による対策	温度検出器の適正管理	実施済み	—	検出器は適切に配置しています。
18	GHG排出人工排熱平準化	必須	運用による対策	照明の運用管理	実施済み	—	管理標準により、消灯時間帯・照度の目標値を設定している。
19	GHG排出人工排熱	必須	運用による対策	ポンプの流量管理の評価	予定なし	—	該当するポンプの数が多いので、計画期間中に全台実施するのは難しい。

番号	区分	種類	項目	重点対策名	対策の 実施状況	(実施予定の場合) 実施年度	●重点対策の判断基準は「重点対策ハンドブック」を参照してください。 ●「予定なし」「非該当」の場合は理由を必ず記入してください。「実施済み」「実施予定」の場合は対策内容を記入してください。
20	GHG排出 人工排熱	必須	運用による 対策	ファン、ブロワの風 量管理の評価	実施予定	—	風量の管理方法を設定しており、管理標準で定めた方法で運用している。
21	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	運用による 対策	地下駐車場の換気管 理	非該当	—	地下駐車場が無いため。
22	GHG排出 人工排熱	必須	運用による 対策	給湯設備の適正管理	実施済み	—	貯湯温度を75℃に設定しており、省エネモード時間を設定している。
23	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	運用による 対策	コージェネレーショ ンの効率管理	非該当	—	コージェネレーションシステムを保有していない。
24	GHG排出 人工排熱	必須	運用による 対策	コンプレッサの吐出 圧の適正化	実施済み	—	コンプレッサの吐出圧と使用設備の圧力差が0.05MPaと、適切に管理しています。
25	GHG排出 人工排熱	必須	運用による 対策	コンプレッサの吸気 温度管理	予定なし	—	コンプレッサー室の構造上、計画期間での実施は難しい。
26	GHG排出 人工排熱	必須	運用による 対策	圧縮空気配管図の整 備	実施済み	—	配管図により工場内の圧縮空気の配管を把握している。
27	GHG排出 人工排熱	必須	自動車対策	エコドライブの励行	実施予定	計画期間内	職員研修を実施予定。
28	GHG排出 人工排熱	必須	自動車対策	自動車の適正な維持 管理	実施済み	—	点検・整備マニュアルを用いて、自動車運転者に適切な維持管理を周知している。
29	GHG排出 人工排熱	必須	自動車対策	自動車の燃料使用量 の把握	実施済み	—	燃料使用量及び走行距離を車両別に定期的に把握している。
30	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備導入等	高効率な照明設備の 導入	実施済み	—	工場内照明はすべてLED化している。
31	GHG排出 人工排熱	必須	設備導入等	高効率な高輝度放電 ランプ等の導入	実施済み	—	対象となる水銀灯について、全て高効率放電ランプに交換している。
32	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備導入等	高効率機器の導入	非該当	—	計画期間中に高効率機器の導入を予定していないため。
33	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備導入等	エネルギー管理シス テムの導入	実施済み	—	エネルギー管理システムを導入している。
34	GHG排出 人工排熱	必須	設備導入等	太陽光発電の導入	非該当	—	屋上に設置スペースがないため。
35	GHG排出 人工排熱	必須	設備導入等	エコカーの導入	実施済み	—	電気自動車1台、ハイブリッド自動車2台を導入済み。また、2020年度にハイブリッド自動車を1台導入予定。
36	GHG排出	必須	経済的手法 を活用した 抑制対策	カーボン・オフセッ トの実施	非該当	—	温室効果ガスの削減は順調に進んでおり、計画の最終年度に3%の削減を達成できる見込みであるため。
37	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備導入等	省エネ診断の実施	実施済み	—	2016年3月に省エネ診断を受診し、「蒸気配管の保温」を提案されたのを受け、2016年9月に断熱材をまくことで、対応した。
38	GHG排出	必須	その他	環境配慮製品の開 発・製造	非該当	—	製品の開発・製造部門を有していない。
39	人工排熱	必須	人工排熱	ヒートアイランド対 策の実施	実施予定	計画期間内	外壁面の緑化を行う予定。
40	GHG排出 人工排熱 平準化	選択	その他	計画期間外の温室効 果ガスの大幅な削減	該当	—	2013～2015年度の計画期間において、2012年度比で11.1%（原単位ベース）の削減を達成できた。
41	GHG排出	選択	その他	事業者独自の取組み	実施済み	—	公共交通機関の積極的な利用、自転車の活用。

実施数(実施予定等含む)	31
該当項目数	33

5 基準年度のエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量

(1) 主な事業所分

①事業所の名称及び所在地

No.	名称	所在地	
1	大阪工場	A市	a町1-1

②基準年度におけるエネルギー使用量

エネルギーの種類	単位	(2021)年度					
		エネルギー使用量(A)		販売エネルギー量(B)		(A) - (B)	
		数値	熱量 (GJ)	数値	熱量 (GJ)	熱量 (GJ)	
原油 (コンデンセート)			0		0	0	
コンデンセート			0		0	0	
ガソリン			0		0	0	
灯油	k L		0		0	0	
軽油	k L	100	3,770		0	3,770	
A重油	k L		0		0	0	
LPG	t		0		0	0	
LNG	t		0		0	0	
都市ガス	km ³	1,200	54,000		0	54,000	
産業用蒸気	GJ		0		0	0	
蒸気 (産業用蒸気以外)	GJ		0		0	0	
温水	GJ		0		0	0	
冷水	GJ		0		0	0	
その他 (**)	-		0		0	0	
その他 (**)			0		0	0	
その他 (**)			0		0	0	
その他 (**)			0		0	0	
その他 (**)			0		0	0	
その他 (**)			0		0	0	
その他 (**)			0		0	0	
その他 (**)			0		0	0	
小計 (GJ)			57,770		0	57,770	
電気事業者	昼間買電	千kWh	5,600	55,832		0	55,832
	(平準化時間買電)	千kWh	2,750	27,418		0	27,418
	夜間買電	千kWh	3,000	27,840		0	27,840
その他	上記以外の買電	千kWh				0	0
	**	千kWh				0	0
	**	千kWh				0	0
	**	千kWh				0	0
	自家発電	千kWh				0	0
小計 (GJ)			83,672		0	83,672	
合計 (GJ)			141,442		0	141,442	
原油換算 (k L)			3,649		0	3,649	

100kLの場合、"100"を記入してください。

100kL × 37.7GJ/kL (単位発熱量) = 3,770GJが自動計算されます。

電力の自由化に伴い、電力事業者の数が増えましたので、電力の買電量(昼間、夜間、平準化時間)は、「5-2電力入力用(主な事業所)」シートに入力してください。入力すると、こちらのセルに反映されます。

〈プルダウン選択〉
温暖化対策指針別表第2に示す小売電気事業者以外の発電事業者で、登録特定送配電事業者等から電気を購入した場合に選択してください。

単位発熱量、CO₂排出係数は対策指針で示した値が入力されています。独自の根拠により数値を変更するときは、直接数値を変更入力してください。なおその場合、変更欄に「レ」が入りますので、その値を採用した根拠を

変更	単位発熱量
	38.2
	35.3
	34.6
	36.7
	37.7
	39.1
	50.8
	54.6
	45
	1.02
	1.36
	1.36
	1.36
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	9.97
	9.97
	9.28
	0
	0
	0
	9.76

変更	CO ₂ 排出係数
	0.0686
	0.0675
	0.0671
	0.0678
	0.0686
	0.0693
	0.059
	0.0495
	0.0509
	0.06
	0.057
	0.057
	0.057
	0
	0
	0
	0
	0
	0
	0.345
	0.346
	0.340
	0
	0
	0
	0

CO ₂ 排出量
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
258.62
0.00
0.00
0.00
0.00
2748.60
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
1934.60
285.86
1020.00
0.00
0.00
0.00
591.8

自家発電を売電している場合は入力してください。原則
(1)燃料等から算出可能な場合はその値
(2)燃料等からの算出が困難な場合 **0.453**

③基準年度における温室効果ガス排出量

区分	(2021)年度
エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	5,962 t-CO ₂
その他 (メタン) の排出量	80 t-CO ₂
() の排出量	t-CO ₂
() の排出量	t-CO ₂
() の排出量	t-CO ₂
() の排出量	t-CO ₂
合計	6,042 t-CO ₂

上記以外の二酸化炭素、及びメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化窒素、三ふっ化窒素について、排出量が多い場合に入力してください。また、計算過程の根拠資料を併せて提出してください。

電力量入力(主な事業所)

事業所名	電気事業者		買電量(千kWh)	うち平準化時間帯買電量(千kWh)	合計買電量(千kWh)	単位発熱量(GJ/千kWh)	CO ₂ 排出係数(t-CO ₂ /千kWh)	熱量(GJ)	うち平準化時間帯熱量(GJ)	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	うち平準化時間帯CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	
1	大阪工場	001関西電力株式会社から供給された電気	昼間	5,000	2,400	8,000	9.97	49,850	23,928	1,700	816	
		夜間	3,000	—	9.28		27,840					—
		096株式会社エネットから供給された電気	昼間	600	350	600		9.97	5,982	3,490	235	
		夜間	0	—	9.28		0	—				0
		**		昼間	0	—			0	9.97	0	
		**		夜間	0	—	9.28	0		0		
		**		昼間	0	—	0		9.97		0	0
		**		夜間	0	—		9.28	0	0		
		合計		昼間	5,600	2,750	8,600	—			55,832	27,418
				夜間	3,000	—		—	27,840	—		
				夜間	0	—	0	9.97			0	0
				夜間	0	—		9.28	0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
合計		昼間	0	0	0	—	0	0			(排出係数) 0.000	(排出係数) 0.000
		夜間	0	—		—			0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
合計		昼間	0	0	0	—	0	0			(排出係数) 0.000	(排出係数) 0.000
		夜間	0	—		—			0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
		昼間	0	—	0	9.97	0	0			0	0
		夜間	0	—		9.28			0	—		
合計		昼間	0	0	0	—	0	0			(排出係数) 0.000	(排出係数) 0.000
		夜間	0	—		—			0	—		

電気事業者を選択してください。

電気事業者ごとの昼間買電量、平準化時間帯買電量、夜間買電量を記載してください。

<平準化時間帯買電量>
夏季(7~9月)及び冬季(12~3月)の8~22時における買電量を記載してください。

電気事業者ごとの「買電量」及び「うち平準化時間帯買電量」を入力すると自動計算されます。

(2) (1)以外の事業所分の合計
①基準年度におけるエネルギー使用

年間エネルギー使用量が1,500kL未満の事業所が複数ある場合は別途集計表を提出してください。

エネルギーの種類	単位	(2021)年度		
		エネルギー使用量 (販売エネルギー量を減じた量)		
		数値	熱量 (GJ)	
原油 (コンデンセートを除く)	k L		0	
コンデンセート	k L		0	
ガソリン	k L		0	
灯油	k L	20	734	
軽油	k L		0	
A重油	k L		0	
L P G	t		0	
L N G	t	50	2,730	
都市ガス	千m ³		0	
産業用蒸気	GJ		0	
蒸気 (産業用蒸気以外)	GJ		0	
温水	GJ		0	
冷水	GJ		0	
その他 (**	-		0	
その他 (**	-		0	
その他 (**	-		0	
その他 (**	-		0	
その他 (**	-		0	
その他 (0	
その他 (0	
小計 (GJ)			3,464	
電気事業者	昼間買電	千kWh	3,500	34,895
	(平準化時間買電)	千kWh	2,150	21,436
	夜間買電	千kWh	250	2,320
その他	上記以外	千kWh		
	**	千kWh		
	**	千kWh		
	**	千kWh		
自家発電	千kWh			
小計 (GJ)			37,215	
合計 (GJ)			40,679	
原油換算 (k L)			1,049	

電力の自由化に伴い、電力事業者の数が増えましたので、電力の買電量(昼間、夜間、平準化時間)は、「6-2電力入力用(その他事業所)」シートに入力してください。入力すると、こちらのセルに反映されます。

〈プルダウン選択〉
温暖化対策指針別表第2に示す小売電気事業者以外の発電事業者で、登録特定送配電事業者等から電気を購入した場合に選択してください。

単位発熱量、CO₂排出係数は対策指針で示した値が入力されています。独自の根拠により数値を変更するときは、直接数値を変更入力してください。なおその場合、変更欄に「レ」が入りますので、その値を採用した根拠を別

変更	単位 発熱量	変更	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量
	38.2		0.0686	0.00
	35.3		0.0675	0.00
	34.6		0.0671	0.00
	36.7		0.0678	49.77
	37.7		0.0686	0.00
	39.1		0.0693	0.00
	50.8		0.059	0.00
	54.6		0.0495	135.14
	45		0.0509	0.00
	1.02		0.06	0.00
	1.36		0.057	0.00
	1.36		0.057	0.00
	1.36		0.057	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	9.97		0.352	1230.50
	9.97		0.352	227.28
	9.28		0.347	86.75
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	9.76			0.00

自家発電を売電している場合は入力してください。原則
(1)燃料等から算出可能な場合はその値
(2)燃料等からの算出が困難な場合 **0.453**

③基準年度における温室効果ガス排出量

区分	(2021)年度
エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	1,502 t-CO ₂
その他 (パーフルオロカーボン)の排出量	180 t-CO ₂
()の排出量	
()の排出量	
()の排出量	
()の排出量	
合計	1,682 t-CO ₂

上記以外の二酸化炭素、及びメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化窒素、三ふっ化窒素について、排出量が多い場合に入力してください。

■その他事

電力量入力(その他事業所)

その他事業所が複数ある場合は、内訳表(添付資料)の提出が別途必要です。

電気事業者		買電量(千kWh)	うち平準化時間帯買電量(千kWh)	合計買電量(千kWh)	単位発熱量(GJ/千kWh)	CO ₂ 排出係数(t-CO ₂ /千kWh)	熱量(GJ)	うち平準化時間帯熱量(GJ)	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	うち平準化時間帯CO ₂ 排出量(t-CO ₂)
001関西電力株式会社から供給された電気	昼間	2,000	1,350	2,000	9.97	0.34	19,940	13,460	680	459
	夜間	0	—		9.28		0	—	0	—
095株式会社F-Powerから供給された電気	昼間	1,000	500	1,200	9.97	0.317	9,970	4,985	317	159
	夜間	200	—		9.28		1,856	—	63	—
312日鉄エンジニアリング株式会社(旧:新日鉄住金エンジニアリング株式会社)から	昼間	500	300	550	9.97	0.467	4,985	2,991	234	140
	夜間	50	—		9.28		464	—	22	—
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0
合計	昼間	3,500	2,150	3,750	—	—	34,895	21,436	1,231 (排出係数) 0.352	758 (排出係数) 0.352
	夜間	250	—		—	—	—	2,320	—	87 (排出係数) 0.347

電気事業者を選択してください。

電気事業者ごとの昼間買電量、平準化時間帯買電量、夜間買電量を記載してください。

<平準化時間帯買電量>
夏季(7~9月)及び冬季(12~3月)の8~22時における買電量を記載してください。

電気事業者ごとの「買電量」及び「うち平準化時間帯買電量」を入力すると自動計算されます。

(3) 事業者で使用する自動車分の合計

①基準年度におけるエネルギー使用量

エネルギーの種類	単位	(2021)年度			
		エネルギー使用量		台数 (台)	
		数値	熱量 (GJ)	総台数	うち、軽自動車を除く台数
ガソリン	kL	50	1,730	40	37
E3ガソリン			0		
バイオエタノール			0		
軽油	kL	110	1,470		
LPG	t		0		
都市ガス	千m3				
その他 ()					
その他 ()					
その他 ()			0		
合計 (GJ)			5,877	40	37

50kLの場合、“50”を記入してください。

基準年度の3月末時点の台数を記入してください。

$50\text{kL} \times 34.6\text{GJ/kL}$ (単位発熱量) = 1,730GJが自動計算されます。

天然ガス車が該当します。

単位発熱量、CO₂排出係数は対策指針で示した値が入力されています。独自の根拠により数値を変更するときは、直接数値を変更入力してください。なおその場合、変更欄に「レ」が入りますので、その値を採用した根拠を

変更	単位発熱量
	34.6
	34.6
	34.6
	37.7
	50.8
	45

変更	CO ₂ 排出係数
	0.0671
	0.0654
	0.0668
	0.0686
	0.059
	0.0509

CO ₂ 排出量
116.08
0.00
0.00
284.48
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
400.57

数値把握の方法

レ	燃料法 (直接、燃料使用量を把握する方法) によるもの
	燃費法 (車両の燃費と走行距離により燃料使用量を把握する方法) によるもの
	その他の方法 ()

※その他の方法
トンキロ法(車種ごとに輸送重量、輸送距離、燃料使用量といった実測データ等をもとに輸送トンキロ当たりの燃料使用量(原単位)を求めておき、その原単位をもとに年間の輸送トンキロから燃料使用量を把握する方法)などがあります。

※燃費法を選択した場合は根拠資料の提出が必要です

②基準年

エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	401 t-CO ₂
---------------------------	-----------------------